

初めての人類学

「人類学」と耳にし、どのような学問なのだろう、と感じる人がほとんどではないだろうか。

冒頭でご紹介した [Tim Ingold](#) (ティム・インゴルド) は、現在、スコットランドのアバディーン大学の人類学部の名誉教授で、彼の半世紀にわたる、人類学の英論文は数多く、その中でも日本語訳にされている「ライズ線の文化史」、「メイキング人類学・考古学・芸術・建築」、「ライフ・オブ・ライズ線-線の生態人類学」、「人類学とは何か」といった書籍も出版されているので、ぜひ一度、目を通していただきたい。

Tim Ingold のしなやかで、力強い言葉の数々が生み出した書物も当然、私 (私たち) は影響を受けている。

さらに、もう 2 人ご紹介したい。

ニュージーランドのオタゴ大学の社会人類学部で私が初めて人類学を教わった [Gautam GHOSH](#) だ。彼は現在、香港中文大學人文社会科学院の准教授である。

彼から教わった講義の内容もこのサイトで投稿する予定だが、私は約 3 年、彼の人類学の講義を取り続け、歯を食いしばりついていった。彼は常に学生に講義中間いかける、その問いの多くが、私たち学生を夜も眠れなくするほど考えさせられた。

次に、イギリスマンチェスター大学院社会人類学部に在籍したころの私の指導教官である、[Jeanette Edward](#) だ。彼女はいつも私に必要な水分量を適度に与えてくれた。また、彼女の一番影響を受けた指導教官は、[Marilyn Strathern](#) である。ストラザーンの「部分的つながり」は、日本語訳でも出版されている。

私はジェネッタを通して、マリリン・ストラザーンと数回ほどであるが、2 人だけで会話をしたことがある。ストラザーンの懐の深さは未知の世界、時の流れが一瞬止まる感覚を味わったことを覚えている。

それでは、オタゴ大学で Gautam GHOSH から教わった人類学から自身の復習を兼ねて、学び再訪したい。まずは、ロビン・ジョージ・コリングウッドの「[The new Leviathan;: Or, Man, society, Civilization and Barbarism](#)」の本文にある What 'Civilization' Means: Generically と Specifically の章から読み返そう。